

essais ころみ 2022年7月

2022年7月1日（金） 晴

梅雨明けから連日の晴天、今日がピークらしい。各地で40℃に届きそうな気温、来週は「戻り梅雨」とかで、少しは暑さもやわらぐ予報。それにしても、7月初めで「戻り梅雨」とは…。

－ すてたものじゃない －

人の問題というのはいつも悩ましいものです。組織のトップやチームリーダーの立場にある人はまず内部の人材のことで頭を抱えています。大企業のようにシステム化されて、所定の評価基準で割り切っていければいいですが、中小、小企業ではそうはいきません。

〈下で働く〉人も色々とストレスがあるもの、でも時には〈上の人〉の方が神経を使って、あれやこれや、問題解決のための方策に時間とおカネと労力をかけている。組織全体のパフォーマンスのためだから当然といえば当然かもしれませんが、その範囲を超えてやっている人もいます。

小さくても組織にはさまざまな背景をもった人が集って働いている。中には個人的に問題を抱えた人もいる。会社のことだけ考えれば、〈切る〉選択が妥当なケースもあります。それでも、そうはしない、できない。だからこそ、また悩ましい。

誰かが自分のことを心配して何とかしようと動く。組織の中でも、外でも、そういう人がいるということはあまり想像しない、できない。でも案外いるもの、〈厚意的暗躍〉する人は。だから世の中すてたものじゃない。

2022年7月4日（月） 雨

昨日から曇り、雨。先週の好天、高温が続いたなら、「コロナ」どころじゃない。今週は台風も近づいていて、雨が続きそう。7日は七夕、そして

－ リスキーなこと －

スマホの電話がようやくつながりました。auなので今回のトラブルに巻き込まれました。でもあまり電話も使っていないので、個人的にはほぼ

それにしても、最初のトラブルからずいぶん時間がかかりました。ATMなども使えなくなって、新聞には「IOTの課題が…」と書かれていましたが、当然想定されたことなので、一般生活者もそのことを実際に目の当たりにした、できた、ということではないでしょうか。

一つことに頼る、偏るというのはリスキー、モノもヒトにも言えます。先週のNHK「アナザーストーリー」に興味をもったので、録画してみました。ナチスが美術館や個人から略奪した絵画の発見をアツかった回で

番組の内容はさておき、ドイツは、過去の歴史にいつか、『人間のフリをした悪魔』を生んで、許してしまったことからけって逃れられない。その重さをあらためて感じました。そして、さて今のロシアは…?とも。

不安や混沌が増すと、強いものに惹かれてしまう。便利でラクなものに慣れると、ちょっとしたことも面倒になる。自分のココロを安定させ、便利すぎるものにはちょっと距離をおく。この心がけ、これからも継続。

2022年7月8日(金) 曇→晴

朝うちは雲が多かった。午後から晴れ間が広がってきた。昨夜は上弦の月、きれいに見えた。天の川はどうだったろう。今日も暑いが、先月末に比べると、しのぎやすい。まだまだ夏は続く。

－ 昨日今日のニュースから －

昨夕のネットニュースに有名な漫画家が沖縄で海に浮いているのが見つかったと報じていました。まったく名前は知りませんが、ヒットメーカーらしい、60歳、一人旅。詳しい事情はまだこれからのよう。

今日の朝刊を読みながら、早めの昼食をとっていたら、社会面にテレビCMで盛んに耳にする転職支援会社の社長が急逝したという報。40歳になったばかりの若い人、心不全とはまたいったい…。

朝刊を読み終え、お昼のニュースでもチェックしようかとスマホでNHKを開こうとしたら、スムーズにいかない。他も同様。そのすぐ後に速報、奈良で応援演説中の元首相が銃弾に倒れた…?!

すぐにラジオをかけると、いつもの番組を中断して速報中。「心肺停止」とは、まさか。それにしても、まったく違う場、世界で、どこか通じる不

英国ではどうとう現首相が辞任。でも米国同様、この間の負の遺産をどう改善させるか、米国大統領の苦悩ぶりからして、次の首相にかかる荷は重い。

スリランカが「破産」して、ロシアと中国に頼らざるを得ずない現実に、世界の勢力図は大きく二分されていくことも想像できます。「ウクライナ侵攻」はその引き金をひいた…?

さて10日の参院選の結果はどうなるでしょうか。それもまた、世界の大きな流れの、小さいけど大きな要素をつくっていくかもしれません。ドット氏の最近の著書のタイトルが頭に浮かびます。

2022年7月11日(月) 曇→晴

少し明るくなってきた。朝一番は薄日がさしていたのに北浜に着いたら、空はどんより。今にも雨が降りそうな空にかわっていた。今日は午後は晴れの予報。でもまた明日は雨とか。意外に今年は秋が早い?

－ 緊張もわるくない －

選挙結果は予報どおり、野党の弱さが目に余ります。これがよく言われる「政治の健全さが損なわれる」にならないことを願うばかり。かつて野党に筆頭だった正当は、いまや見る影もない状態、人材がいないん

さて今週土曜から『プロ講師になろう塾』が始まり講師を担当しますが、自分の方が受講者になる機会ももちよくつくっています。先週土曜もあるセミナーに参加してきました。

そうして気づくことですが、けっこう受講者の方が緊張するという。自己紹介や演習の発表などを求められ、自分の順番を待っている間に次第に心臓がばくばくする。で、いざ前に出て話し始めると、よどみなくしゃべる。これはやはり場数でしょうか。

講師の方が緊張しないというのは、事前にある程度シナリオを練ってあり、場の全体を統括する立場ですから、自分の中でシミュレーションを重ねている。そこでも自分をもっていつている。つまり気は張っているから、緊張はしないのだらうと思います。

緊張、でも緊張はわるいものではありません。身心を活性化してくれる感じがします。緩慢さに慣れてしまわないよう、時々緊張する場をつくる。これ、けっこういいんじゃないでしょうか。

2022年7月13日(水) 晴⇄曇

雲は多いけど晴れ。週末にかけてまた曇りや雨らしいから貴重な洗濯日和。でもこの時期でかけるなら雲か雨の日、個人的には。6月の梅雨明け時の暑さから比べると、このところはすごしやすい。

— 『縁は異なるもの味なもの』 —

今日のessaisでも話しましたが、縁とは本当に「異なるもの味なもの」です。年を重ねるごとに、出会ってからの物語が増えてくるので、ますますそう感じるようになります。

出会いは偶然だったとしても、続くとは限らない。出会いと縁は別物だということもわかってきます。もう33年前の夏休み、ロンドンの裏道を歩いていて、日本で顔見知りの女性とバッタリ会った時にはなんとという偶然!と心底ビックリしました。でも互いに簡単に挨拶して、それっきり。どちらも一人旅だから、短時間でも一緒に行動してよさそうなのに、そうは

独立以来、今も続く縁がいくつかあります。多くは友人・知人などを介して、稀にこのWebサイトを熟読されて。いずれもちろんその方々の「出会い」があつたのですが、その捉え方は変わりました。

見つけてもらった。「出会った」のではなく、先方に「見つけてもらった」。『自業のすすめ』をまとめていた6,7年前にそう気づいたのです。“そうだ、わたしは見つけてもらったんだ、みなさんに…”。これはなかなか鮮烈な発見、ある種の開眼、悟りでした。

これを誰に感謝すればいいか、天に感謝するしかないか、ともあれ、目の前がまたパッと開いたことで、わたしの未完自業史が、〈わたしの〉で済まない、もっと重層的、複層的なものに感じられました。一人で生きているのではないので、考えてみれば、当たり前ですが。

2022年7月15日(金) 曇→雨

今朝も曇り空、午後には少し晴れ間ものぞめそうだが、そうなるとうし暑さが増す。7年ほど前から夏の服装はワンパターン。袖通しのある大判のストールを羽織る。冷房で首、腕が冷えるのを防ぎ、腕周りが風通しがよく、熱がこもらない。もう以前の服装には戻れない。

－ 心理の体系的な学び －

昨年春頃に一つ問題意識をもったのが、人を支えるどんな仕事をする人にも心理の体系的な学びが必要、ということ。自分もそうしようと、本を読み、セミナーにも出かけました。

いずれも心理学の範疇のものですが、でも心理は心理学だけで事足りませんね。人間のこころは複雑怪奇、曖昧模糊、あの手この手を借りて、少し概要をつかめるというものではないでしょうか。

実際、心理学の本の中に、他の分野で教えてくれることが多々あります。何かしら自分の道を究めた人の体得したことから学ぶこともたくさんあります。例えば、「世阿弥」の『風姿花伝』、『数学する人生』の「岡

5月に『風姿花伝』をちょっと読みなおした時に、あらためていくつかメモをしました。その一つ、「花を知らんと思はば先づ、種を知るべし。花は心、種は態(わざ)なるべし」。

『数学する人生』を読んだのは5年前ですが、その時しばらく「岡潔」にひたっておりました。読書メモも普通の倍になりました。例えば、読み始めてすぐに、「情緒は概念ではなく実感であり、理解されるべきものである以上に体得されなければならない」。

そして、「このからだ、この心が自分だと思うのは間違い。人というのは、大宇宙という一本の木の、一枚の葉のようなもの。その一枚の葉をやめたなら、ただちに葉は枯れる。人の肉体は、大宇宙の主宰性があるがゆえに存在する」。

そんなこんな考えを含めて、自分なりの心理の体系的な学びが続くことになります、これからも。

2022年7月19日(火) 雨

「梅雨末期のような…」と予報士の人が今週のお天気を解説。あの梅雨明け宣言は訂正されないのかしら。金曜にかけても雨の予報。晴れ始めるのは23日(土)からとか。「大暑」かつ「土用の丑の日」。

－ 流儀からブランド －

16日から『プロ講師になろう塾approach2022』が始まりました。「女性の活躍促進事業」の施策の一つで、受講料は無料。社会での中で主体的に活動しようとする女性たちを後押しするものです。

初期の頃は30時間あった塾ですが、今は実質9時間、受講者はまさに主体的な姿勢が問われます。冒頭に、集中、自習、前倒してタスク・課業にのぞむよう強調して、エールをおくりました。

エールの一環としてわたし自身の自己紹介の際に、「ソリスト」として30年以上続いてきたワケを話しました。といっても、そのワケは単純なものではない。自他ともの様々な要素が複雑に重なり合ってはまずです。

ですからとりあえず3つに絞ってみると、ということで例をあげながら話しましたが、受講者のみなさんは何を感じ、どの点に反応したでしょうか。その反応がその人の中にすでにあるものの。

このページにも紹介しているモンテニューの言葉どおり、自分自身を細かく観察できれば、それは大きな糧。自身の精神性をみとめ、それは行動様式に表れていることを知り、自分の「流儀」に開眼して、その流儀に磨きをかけて続ければ、ブランドになる。

そんなことも話しました。受講者のみなさんは今頃2回目までのタスクに頭を悩ませているはず。初日の感想とあわせて、この一週間の試行錯誤、悪戦苦闘ぶりはさていかに。

2022年7月21日(木) 晴→曇

朝一番は晴れ間ものぞいていたが、徐々に雲がふえてきた。明日にかけてまた雨が降りそう。昨日から今朝にかけて暑さがマシ、体も動きやすい。やはり厳しい暑さはカラダにわるい。

－ 自分の住む世界 －

いつか「親ガチャ」が話題になりましたが、親も選べないけど、時代も選べない。個人的には内心、いま自分が若年期でなくてよかったと思えます。

自分の意見や考えを表すのが基本的に礼儀と考えている者にとって、おそらく今の一般社会生活はかなり生きにくい。もう嫌気がさして、世捨て人になったかもしれません。

人と真っ向から話せない、ホンネで話し合えない、自分の都合を優先する、面倒なことは人にさせる、子どもを諭せない、など等。〈現場〉レベルの話を聴いても、これらはそれほど珍しいことではない、今は。

一方で、そうじゃない人も確実にいる。時代は変わっても、変らない人も一定数いるのが人の世。だから、その他大多数の様相がこの一定数のポジションに影響を与える。いつか20代の女性と話していて、「これから特に気丈に!」と励ましたものです。

独立前、正社員でいくらかでも転職できた時代、外資系の化粧品会社にも入ったことがあります。ずっと美容部員として働いてきた先輩たちのライフスタイルを目の当たりにして、“住む世界が違う…”。

同時代の社会に生きているけど、住む世界が違う、どこを居場所にするかは自分を生きる上でも大事なことで気づいた最初です。その後も何度となく同じように感じる場、機会がありました。

独立してからはなお一層、そしてこれからの時代は、さらにさらに、です。自分の居場所をどこにおくか、よくよく見極めたいものです。ちなみに化粧品会社は試用期間終了と同時にやめました。先方には申し訳ありませんが、一つ小さな学びをさせてもらった、よい経験でした。

2022年7月25日(月) 曇→晴

大暑の日も昨日もよく晴れた。暑かったけど、カラッとして、なんともすごしやすい夏。まさかこのままということはないと思うけど、蝉の鳴き声も弱いから梅雨明けの時のような暑さにはならない？ そう願いたい。

－ 食物連鎖 －

数日前のスマホニュースに中堅芸人の番組降板、事務所退所が載っていました。仮想通貨への投資話を周囲にもちかけ、5億円ほど集めて、云々。ただこの芸人は首謀者にうまく使われたんじゃないかと思いますが、さてどうなのでしょう。

税務職員も関わった給付金詐欺もその先に投資話がありました。ここでも首謀者陣が、まだ社会経験の少ない若い人たちの野心、冒険心、自尊心をうまく操り、自分たちの都合のいいように使った。

いつの時代もそういう輩はいるものですが、「終身雇用制」がくずれ、「自己責任」を迫る社会になって、少しでもラクにクに目にみえる利益にあやかりたいと考える人も増えているのかもしれませんが。中には、そうする人が「デキる人」とみる価値観もある。

十数年ほど前からでしょうか、街をいく人たちの中に、〈ウサンくさい〉感じの若い男性をみるようになりました。仕事仲間か2、3人で一緒に歩いているのですが、そばを通った時に聞こえる話し方、話の内容、そして歩き方、顔つき。全体にそれなりにおしゃれな感じはするけど、怪しい。

でもこういう人にふわっと乗ってしまう若い女性や男性がいるんだろうなあと思いながら、通り過ぎるのです。『私の日本語雑記』の著者で精神科医の「中井久夫」は本の中で、「今生きて人間」について、次のように書いていました。

「食物連鎖の頂点に立つ生物は通常少数。人間は他の生物から独立した、人が人を食い物にする一種、食物連鎖のようなものをつくりだしてしまったのではないだろうか」。

漠然と感じていたことをうまく表現してくれています。さて、その連鎖に巻き込まれない働き方、いき方をする。ある程度、実践できているんじゃないかと自分では感じています。